



# 弘学の仲間同志



学長 吉岡 利忠

津軽の春は、いつせいにさまざまな花々が咲き、蝶が飛び交い虫たちも這いずり回り、また、何かしら新鮮な匂いも立ち込め、視覚、嗅覚、聴覚などが刺激される季節です。津軽の人びとはこの季節の到来を待ちに待っていました。なにもかにもフレッシュな雰囲気の中で、弘前学院大学は新入生の皆さんをお迎えすることができました。保護者の皆さま共々、誠におめでとうございます。

さて、この原稿が載っている「弘学時報」は二千部印刷されており、保護者の皆さま、本学教職員、県内高校、新入生のみならずへ配布されており、六号館の学生ラウンジに沢山おいてあります。この時報には、学生、教職員の区別なく大学のありとあらゆる出来事が載っています。入学式や卒業式の式典記事、催し物の案内、教職員の紹介、キャンパスイベントなど盛り沢山の内容です。昨年の十月一日の弘前学院創立一〇〇年記念式典については「弘学時報」だけではなく、地方新聞に大々的に報道されました。逐次に発行されていますので、紙面から大学の状況を含めた全体像を知ることができます。是非、「弘学時報」を活用して頂き

たいし、お読みになつていらっしゃる方々の周りの方たちにも読んでもらいたいと思います。また、学生からの投稿もウエルカムです。

新入生へ大学の授業、実習について一言。先ず、休まないこと、授業時間を守る。当たり前のことです。一回授業をサボると、その内容を自身で勉強した場合少なくとも三時間は必要になるし、実習については取り返しのつかないダメージを受けることになります。授業は、先生の話を受動的に聞くというだけではなしに、自身その内容を咀嚼し吟味し判断するという能力を身に付けていくことだと思えます。それ相応のエネルギーが費やされますが、真に自分のものになりますし、興味も湧いてくるものです。そうして得られた知識は、大脳皮質の引き出しにしっかりと組み込まれます。

教員は、皆さんの一人ひとりのことを注意深く見守っています。学部によって多少の違いはありますが、オフィスアワー(自由に教員の研究室に入りし相談する)とかチューター制(勉強、学生生活などの個人指導)を導入しています。おおいに利用してください。また、個人的に困ったことが生じたり心身の悩み

第23号  
編集発行 弘前学院大学  
弘前報委員  
印刷所 小野印刷所

などがある場合は、専門家に よるカウンセリングも受ける ことが出来ますし、その分野 の医師からの適切な支援やア ドバイスも受けられます。安 心して大学の四年間、研究科 学生には二年間を送つてくだ さい。

入学式の際に、皆さまにお 渡しした大学のエンブレム印 章は、岩木山と弘前学院大学 のHとGの花文字が付いたも ので、今年、初めて作りまし た。教職員にも同じバッジが 配布されており、私たちが弘前学院大学の仲間同 志です。時々、いや毎日胸に 着けてください。

## 弘前学院百二十年史刊行について



学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘

弘前学院は、キリスト教に 基づく教育を続けて創立百二 十年を迎えた。この時にあた り、弘前学院創立百二十年記 念事業協賛会を組織し、会長 には弘前学院後援会長である 野澤 武氏にご就任いただい た。記念事業は、式典・祝賀会 募金、記念式典発行を柱とする ものである。記念式典・祝賀 会は去る二〇〇五年十月一日 アワー(自由に教員の研究室 に入りし相談する)とか チューター制(勉強、学生生活 などの個人指導)を導入して います。おおいに利用して ください。また、個人的に困

たことが生じたり心身の悩み がある場合は、専門家に よるカウンセリングも受ける ことが出来ますし、その分野 の医師からの適切な支援やア ドバイスも受けられます。安 心して大学の四年間、研究科 学生には二年間を送つてくだ さい。

入学式の際に、皆さまにお 渡しした大学のエンブレム印 章は、岩木山と弘前学院大学 のHとGの花文字が付いたも ので、今年、初めて作りまし た。教職員にも同じバッジが 配布されており、私たちが弘前学院大学の仲間同 志です。時々、いや毎日胸に 着けてください。

## 聖愛中高一貫教育の目指すもの



聖愛中学校副校長 柳町 誠也

近年、急激な科学技術の発 展と価値観の多様化に伴い、 社会は情報化、国際化など急 速に変貌しつつあります。こ うした日々変化する社会状 況に比べ、実証的視点に立っ た教育を提供するため、弘前 学院は、聖愛高校に中学校を 併設し、中高一貫教育を導入 することにしました。創立 一〇〇年の記念すべきこの年 に、中高一貫校として開校し、 第一回入学式が挙行で きますことになり、誠に 喜ばしい限りです。

弘前学院はこれまで 二〇〇年に渡り、キリ スト教主義による人間 形成を目指し、高い理 想を掲げ、清らかな学風 のもと、つねに前向き に教職員一体となって 人材育成、教育研究に 取り組んで参りました。 この度開校する聖 愛中学校は、こうした

## 2006年度弘前学院聖愛中学校高等学校 入学式(4月7日(金))

が求められる。幸い百年史の 編纂に深くかわられた元弘 前学院聖愛高等学校教諭の岩 淵玲子先生が、この仕事にご 協力ご指導くださった栄誉を得 て編纂の布陣が完成した。こ の場を借りて心から感謝申し 上げるものである。

編纂は、この仕事にふさわ しく、弘前学院外人宣教師館 (現在弘前学院資料館)にお いて前弘前学院聖愛高等学校 長 小泉 洋先生を中心にして 作業が進められている。百二十 年史は、「百年史」「百年誌」 に収めきれなかった事項のうち 特に「写真」に力点を置く 構成になっている。出版にあ たり資料提供等のご協力をい ただいた多くの方々並びに出 版に向けて日夜ご苦労をいた だいている実行委員の皆様に 対し、深甚の謝意を表すると 共に、主の栄光が弘前学院教 育に実現されるよう祈りつつ 上梓を待ち望んでいるところ である。

## 宣誓

深い雪におおわれた長く厳 しい季節を耐え抜き、今、み ちのく津軽の大地は暖かい春 の陽差しを一面に受け、新 しい息吹を感じ輝いておりま す。

本日私達は将来へ向けての 大きな希望と、勉学に励むと いう志を胸に、弘前学院大 学に入学することができまし た。この良き日をご来賓の



2006年度 入学式(4月5日(水))

努力が必要で、将来の自分 の姿を想像し、常に目標を持 ち、進んでいくことが大切だ と思います。

社会にはまだまだ未熟な 私達は、本学で四年という月 日をかけ、社会へ羽ばたく準 備をすることが出来ます。今 まで「好き」や「得意」だつ たことを、本学でさらに磨き をかけ、社会へ貢献できる人 材になることができます。今 駆け出しの私達は、時に不安 なるかもしれせん。その 時は初心に返り、また、 親愛なる仲間と手を取り 合いながら進んでいきたく と思います。

今、私達は本学で新た なスタートを踏み出しま した。これから様々な人 と出会い、様々な経験を 積み重ねていくでしょう う。これからの大学生活 で得たことは、必ず将来 の糧になると思えます。 全てのことに粉骨砕身 し、自分自身を育ててい きたいと思えます。

未来への希望と夢実現 のため、本学を目指した 初心を忘れず、弘前学院 大学の学生としての自覚 と誇りを持ち、社会へ踏 み出すことのできるよ う、一日一日を勉学に励 み、精一杯努力すること を誓います。

二〇〇六年四月五日  
弘前学院大学文学部  
第三十六回代表  
三上博美

歴史と伝統のある教育を受け 継ぎ、新しいタイプの中高一 貫校として、学校を「個性伸 長・才能発見」の場としてと らえ、中高の垣根を取り払 い、高等教育をも視野に入れ 「知・徳・体」のバランスの とれた幅広い人間育成に努め るものであります。中学高校 の教育課程を一本化し、学院 生活にゆとりを生み出し、新 時代に対応した質の高い教育 内容ときめ細かな指導の徹底 を図り、生徒個々の能力を最 大限引き出すことによって、 真の「実力」を備えた人材を 育成することであり、人間 間一生の中で最も伸び盛りの 中学生・高校生に、心と知性 のバランスのとれた「倫理教 育」を施すことは、本学院の 建学の精神「畏神愛人」の具 現化に向けた教育実践の一つ でもあるのです。

昨今の日本社会には、人を 欺き、残酷で目を覆いたくな るような事件・事故が相次い ております。こうした事件が

起るたびに学校がスポーツ を浴び、その無力さが映し出 されております。弱い人間が 誘惑に負けない倫理観を持つ にはどうすればよいか。こ れは人類永遠の課題であろ う。しかし、教育がその責任 の一端を担っていることは間 違いない。まさにこうした倫 理観こそ生涯かけて求め続け ているものであり、本学院の 一貫教育で目指しているもの であり、

# 新たな一歩

弘前学院校友会会長 工藤 幸



新入生の皆様、ご入学誠にありがとうございます。母校弘前学院は、百二十年前弘前教会内に創設され、最初の生徒は十数名、内二名は男子であったという。因みに私は六十三年前、弘前女学校に入学し、聖愛高等女学校を卒業しました。学院は時代と共に変遷し、百二十年の歴史と伝統を築き、今年、百二十一回目の新入生を迎えることになりました。新入生の全てが未来の校友会会員であることに感謝と喜びと期待を抱き、校友会の一端を述べたいと思います。その起源は一九〇〇年、卒業生十二名が集まり、第一回同窓会を開催。一九二一年に校友会と改称され、常に学院と関係を断ち切ることなく今

顧みずと、二〇〇〇年、校友会創設百周年記念総会を献堂間もない大学礼拝堂で開催し、二百数十名の校友が一堂に集い、礼拝・記念講演、ハレルヤコーラスの大合唱など心底に深く残り、祝賀会の語らいは旧交を温め、またの再会を誓い合ったものです。百周年記念、唯一の有形は『弘前学院校友会百年史』の発行でした。無知な私共が一世紀をまとめる事は正に新たな一歩の始まりでした。聖愛高校図書館の大金庫にある貴重な資料により校友会の歩み、先人の偉業、校舎、校章、

# 『キリスト教学校の理念』

宗教主任 中澤 實郎



キリスト教学校では何故、礼拝が行われ、キリスト教という講義が設置されているのかという疑問を新入生は持つようです。その理由は以下のことによりです。

『寄付行爲』第三条によると「教育の『目的』は、「教育基本法及び学校教育法に従い、基督教主義により、学校教育を行うことを目的とする」と掲げられています。キリスト教主義とは、キリスト教の精神あるいは理念のことです。キリスト教の精神によって教育を行うことに、本学の存在の意義があるわけですが、キリスト教の精神の具現として先ず、礼拝があります。

入学式と卒業式は礼拝です。学校教育は礼拝から始まって礼拝によって終わります。讃美歌を歌い聖書を朗読し祈禱を捧げます。その他に、創立記念礼拝と秋の特別礼拝、毎週の礼拝、そして教授会も祈りをもち始めます。また、新入生は、入学式の後、全教員が参加して一泊二日の「リトリート」を開催します。次に、教育についてです。『教育基本法』第一条「教育の目的」「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し」と明記されています。教育の目的は「人格の完成をめざす」とのことです。本学は、人格の完成をキリスト教を基盤として行うことをめざしています。大学における人間教育は、

校旗、服装などの時の流れに接し、一層母校愛に燃えまじた。校友会手作りの校友会百年史は学院各校の図書室をはじめ、国、県、市の図書館に収められています。いつの日か誰かの目にとまる日があつたら、その時、校友会は新たな息吹を覚えるでしょう。新入生の皆様、二〇〇六年四月五日、この日が弘前学院大学の新たな一歩。校友会は入学を祝い、聖句入りのリボンを送り続けて五十四年。『愛は寛容にして慈悲あり』愛読書の葉として、時には心のしおりとして使ってください。在校生と校友会は有形無形で結ばれています。皆様の生の姿・生の声を見聞きして新たな発見もあれば、私共は可能な限り多くの接点をもちたいと思っています。『新たな一歩』の始発・終着は何時、何処なのか。一歩、一歩の積み重ねが苦あり楽ありの人生でしょう。強く正しく 今日の日を大切に!!

サイエンス(人文科学・社会科学・自然科学・芸術・体育)についての教育と研究です。サイエンスによって人間が耕され、養われ、形成されるのです。カルチャー(教養・文化)の語源はカルト(敬養)語には礼拝という意味があります。著名な欧米の大学は、礼拝を重んじました。大学の歴史は礼拝とは不可分の関係があったわけでは、自分の学問の成果や理念を絶対化する絶対化と格別化することです。これに對して、キリスト教の礼拝は、創造者なる神を主として拝むことによる自己の理念を相対化する行為なのであります。欧米のキリスト教学校は、真に人格を完成するためには学問、知識、技術だけでなく、愛が必要と考えてきました。このような理由で、礼拝を捧げ、キリスト教で、キリスト教の本質たる愛について学ぶわけでは、

## 弘前学院・弘前学院大学出版物紹介

- 弘前学院創立120年記念事業出版物実行委員会
- 弘前学院創立120年記念史 「弘前学院の120年」(2006年6月25日発行予定)
- 弘前学院出版会 相澤文蔵著・弘前学院出版委員会編 「津軽を拓いた人々ー津軽の近代化とキリスト教ー」 3,000円
- 「田澤吉郎伝」 編集委員会編 「田澤吉郎伝」5,000円 共に北方新社(0172-36-2821)にて、販売
- 弘前学院大学宗教部 「たてごと」(年2回)
- 弘前学院大学文学部 「紀要」(年1回)
- 弘前学院大学社会福祉学部 「社会福祉学部紀要」(年1回)
- 弘前学院大学看護学部 「弘前学院大学 看護紀要」(年1回予定)
- 弘前学院大学図書館 「書海」(年1回)
- 弘前学院大学地域総合研究所 「地域学」(創刊号~3)
- 弘前学院大学国語国文学会 「弘学大語文」(年1回)
- 弘前学院大学英語英米文学会 「弘前学院大学英米文学」(年1回)
- 弘前学院大学文学部 「絵町リーフレットー文章コンテスト作品集ー」
- 弘前学院大学文学部社会教育研究所 「社会教育調査実習報告書」(年1回)
- 弘前学院大学国語国文学会 「国語国文学会報」
- 弘前学院大学社会福祉学部社会福祉教育研究所 「弘前学院大学社会福祉学部 社会福祉教育研究所年報」
- 弘前学院大学社会福祉学部 「精神保健福祉援助実習 実習報告集」(年1回)
- 弘前学院大学社会福祉学部 「社会福祉実習I(社会福祉援助技術現場実習)実習報告集」(年1回)



文学部・「紀要」  
社会福祉学部・  
「社会福祉学部紀要」



弘前学院出版会・  
「田澤吉郎伝」



地域総合研究所・  
「地域学」  
創刊号~3号



英語英米文学会・  
「弘前学院大学英米文学」



図書館・「書海」



社会福祉学部・「実習報告集(2種)」



宗教部・「たてごと」



国語国文学会・「弘学大語文」  
国語国文学会・「国語国文学会報」

## 吉岡学長日本体力医学協会理事長(第八代)に就任

吉岡利忠学長は、二〇〇六(平成十八)年四月一日付けで、日本体力医学協会理事長(第八代)に選出されました。本学会は、日本医学会第三九分科会にあたり六十一年の歴史を有しています。会員総数五、二〇〇人で、その内、評議員五五名、理事二五名です。北海道から九州まで八つの地方会があります。本会は、体力ならびにスポーツ医学に関する研究の進歩、発展を促進し、年に一度の大会を国民体育大会開催県で開催されています。学長は、神奈川県で開催された第三三回大会の大会会長も務められました。本学会の歴代理事長は、日本の医学界において高名なる方々が就任され、国民の負託に応えられてきております。この榮譽に本学の学長が就任されることは、本学にとっても、もちろんのこと、青森県にとっても名譽なことでもあります。なお、学長は、平成十五年から会員数一、六〇〇人の日本運動生理学会理事長・会長の職にあります。二〇〇七(平成十九)年七月二十五日(二十七日には弘前市のホテルニューキャッスルにおいて第一〇回大会の大会長を務めることになっております。

## PTA総会のお知らせ

二〇〇六(平成十八)年度弘前学院大学父母と教職員總會を左記により開催します。多くの会員の皆様のご参加をお願い致します。

日時 二〇〇六(平成十八)年五月二十日(土) 午後二時

場所 弘前学院大学一五講義室(一号館) 大学総務課

連絡先 電話〇一七二一三四一五二二一

客員教授紹介



客員教授  
出村 和子



客員教授  
中屋敷 宏



客員教授  
永野 孝和

新任紹介

文学部



文学部講師  
関 直規

社会福祉学部



社会福祉学部助教授  
八戸 宏



社会福祉学部教授  
八巻 正治

看護学部



看護学部助教授  
岡田 実



看護学部教授  
櫛引 美代子



社会福祉学部講師  
船木 幸弘



社会福祉学部講師  
柘植 秀通

職員



総務課長  
竹内 明夫



事務職員(総務課)  
今 宣孝



事務職員(学務課・社会福祉教育研究所)  
外崎 美香

人事異動

○退職(三月三十一日付)

大学社会福祉学部  
大学院社会福祉学研究所  
教授 出村 和子

教授 田中 利宗

大学社会福祉学部  
助教授 栗山 隆

助教授 志村 健一

大学文学部  
助教授 奈倉 俊江

助教授 大高 研道

○学内異動(四月一日付)

学生課長 下山 桂子  
(総務課長補佐より)

入試センター次長 大坊 幹子  
(学務課社会福祉学部事務より)

総務課 成田 紘子  
(本部事務室より)

学務課 社会福祉教育研究所・  
社会福祉学部事務兼務 齊藤 妙子  
(学生課長より)

学生課 百瀬 恵子  
(聖愛高校より)

入試センター 葛西麻衣子  
(本部事務室より)

転出 法人本部へ 佐々木 力  
(総務課より)

法人本部へ 齋藤 早苗  
(入試センターより)

聖愛高校へ 石岡 肇子  
(学生課より)

# 卒業生からのメッセージ



## 弘前学院で 過ごした想い

一九七五年三月  
英米文学科卒業  
伊藤裕美子

弘前学院大学の第一期生として、文字どおり学院の懐から巣立つ不安だらけで、名残惜しい思いを抱えたまま春を迎えてしまった記憶が蘇ります。中学・高校と聖愛で学び、なんとなく英語が面白くなってきたという理由だけで、親の経済力も考えずに四年制大

入学の希望がかなえられたのは幸せなことでした。久しぶりに卒業アルバムを探し出して坂本町の校舎を懐かしむとともに、総町の大学校舎の真つさらな開放感のようなものが目について、ほろ苦さを噛みしめています。

中学校入学は昭和四十年です。弘前女子生徒ばかりの静けさ、弘前の人々の話しことばの穏やかさに、田舎者の私は驚かされながらも居心地よく過ごしました。また、礼拝堂や聖書と讃美歌の旋律は異世界のようで、私にとつてある種の「癒し」となったものでした。中学校では、宣教師でもあり英語を担当されたパーソンズ先生の厳しさと怖さが強烈で、あの宣教師館の建物とともに脳裏に焼きついていま

高校になって、柏崎節子先生の英語教育に対する控え目な熱意が伝わり、楽しめるようになったと思っっています。大学生活は何もかも新鮮で刺激的で、背伸びしつつ個性的な先生方の講義を受け、最後には卒業で苦しみながらも卒業までこぎつけました。

しかし、当時弘前ではまだ大卒女子を受け入れる職場は少なく、私がアルバイトを経て今の仕事に巡り合えたのは、八月になって二人の同期の友人のお蔭で、以来この津軽書房の出版の仕事にのめりこんで今にいたっておりま

## 談話室

### 紙の山

社会福祉学部助教  
松本 郁代

「先生って、何も出来ませんよ。」と言われることが度々ある。人工呼吸器に繋がれている姿を一瞬想像するのだが、どうやら、これは、生活に関係することや実務的な



ことは不得手に見えるという発言のようである。たしかに、家事などを職業にしたいと思ふほどではなく、「ご飯は毎日お鍋で炊いている。車の免許を取りに行くなら大型。」と答えて、執拗な人には、同じことを言ったら、「罰金。」と応酬している。

ところで、趣味について書くようにと指示されて戸惑ったが、子どもの頃に、プロから伝授された紙の取扱について書くことにした。遊びの延長で、紙を揃えたり削いたり、硬い紙を合理的に折り曲げたりといったこと等をするようになった。数年前からは、カレンダーなどを再利用して、封筒に仕立てるといったことをしている。短時間で仕上がって、その成果をすぐに総括することができる点が気に入っている。

最初は、物差しで寸法を計っていたが、折りたたむことによつて、分量で大きさを決めることとなった。両面テープで貼り合わせるとすっきりと仕上がる。郵便の定形内封筒として使用した場合には、適切な大きさにする必要があるので、最近では、それもだいたいこのところで作って、あとで計測するでジャストサイズになっていく。折れながら恐ろしくなることがある。

製作上、注意している点のひとつだけ。それは、重なり合った部分は、右上になるようにすることである。既成の封筒で左前になっている物を見ると具合が悪くなりそうになる。

毎日、本という紙に埋もれて生活している中で、一枚の紙で生活を愉しむことができるのは、幸いである。しかしながら、他の研究室に掛けられているカレンダーを見ると、「ここを切って、この図柄を活かして……。」と考案してしまう始末である。違うkamiについて勉強した方がいいのかもしれないが、それはいずれまた。

ここで私がいう「学び」は興味を持ち、何でも知ろうとする姿勢を指します。私は高校時代、自分の好きなことには興味を示さず、記憶がなほに平凡に生活してしま

## 2006年3月卒業生 卒業おめでとう



### 大学生活を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科卒業  
佐藤有香子

パイプオルガンの音色が礼拝堂に鳴り響く中、これから始まる大学生活に胸躍らせた入学式。また新たなスタートを迎えようとしている今、あの頃の気持ちがよみがえってきます。

この四年間、勉強だけでなくアルバイトやボランティアの資格を取得できるということとこの大学を志望しました。そのこと以上に今は、熱心に指導してくださった先生方や素晴らしい仲間との出会いがあって、「弘前学院大学に入学して良かった」と心から思っています。

十八歳だった私も二十二歳となり、四月からは社会人として秋田県内の病院で働く予とに近づきます。知りたいことは自分が知りたいと思つたことだからです。問題意識を持つことは社会に出て求められることなので、日々何かに出会い、考えるのはその練習といえるでしょう。

「出会い」ものは人に限りません。テレビや音楽などの趣味、また通学途中の光景、イベント参加、バイトや遊び、いつも何気なく見たりして、思うことすべてが学びだと私は考えます。だから在学中は、いろんな「出会い」を経験し、ただ経験するだけでなく色々なことを感じ取るべきだと思います。

卒業が近づくにつれて、周囲と比較し自分は進路の定まらない幼い人間だと悩んだ時期がありました。最近ではまだ先はあるしそんなに焦ることはないのかとも考えるようになってきました。何が何とつながついていくかわからないので、今は少しでも自分が興味のあることに進み、努めようと思ひ、春からの仕事を決めました。

定です。期待も不安もありますが、医療ソーシャルワーカーに憧れていた頃の気持ちを忘れず、日々努力し前進し続けたいと思っています。在学生の皆さん、自分の目標に向かって突き進んでください。そして、今しか出来ないこと、今だから出来ることを精一杯頑張ってください。

### 「大学院を修了して」

大学院社会福祉学研究科卒業  
鎌田 晋

大学院を修了して今思うことは、悔いのない二年間を過ごせたということです。大学



時代は、テスト、実習、資格試験などに次々と取り組むうちにあつたという間に過ぎましたが、大学院時代は選択肢が多かつたため大学院時代以上に迷うことが多く、試行錯誤を繰り返していたように思います。大学院時代の挑戦としては、修士論文、学会での発表、ボランティアなどがあります。それぞれの内容は、決して十分であるとは言えませんが、学生時代



2005年度卒業式(3月19日) 理事長賞受与

大学生活を終えて  
文学部英語・英米文学科卒業  
木村 美里



と思います。警視庁警察官として採用されることが決まっていたから、楽しかった大学生活を惜しみながらも、頭を切り替えていくのは、という心境です。私にとって大学は、多くのことを学ばせてくれた大切な場所です。入学前から「絶対警察官になる」という目標を持っていた私は、在学中にできるだけのことはやりまし

代に出会った方々から御指導を頂いたこと、そして自分なりに出来ることを追究し続けたいことにより、納得のいく成果を得られたと感じています。また、大学院時代に出会った方々には、就職後どのような気持ちで仕事に取り組むべきかを考える良い機会を与えて頂いたと感謝しています。今後、大学、大学院においてお世話になった方々に恩返しをするような気持ちで仕事に取り組んでいきたいと考えています。そのうえで、私は、誰のために、何のためにソーシャルワーカーがいるのかを念頭に置きながら、より良い援助への模索をしていきたいと思っっています。加えて、修士論文では理論を整理することが今後は実践と理論との「距離」を意識しながら考察を続けていき、実践と理論との「乖離」を縮めることも含めて実践を行なっていきたいと思っっています。